

# 会議録

## 1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議

## 2 開催日時

令和8年8月20日（木）午前10時00分から正午まで

## 3 開催場所

市役所 202会議室・203会議室

## 4 出席した者の氏名

- (1) 委員 西村幸夫、石田芳弘、佐分晴夫、服部敦、太田里奈、岡田雅隆、  
高橋秀治、河治豊弘、柴田浩行、久世高裕（順不同・敬称略）
- (2) 執行機関 小池経済環境部長、伊藤観光課長、桃原観光課長補佐、  
小澤観光課主査補

## 5 議題

### 1. 観光戦略の概要説明

### 2. 観光戦略の進捗状況について

- ① KPI の進捗 \_\_\_\_\_ 資料2
- ② 施策全体の総括 \_\_\_\_\_ 資料3
- ③ 個別施策の進捗 \_\_\_\_\_ 資料4
- ④ 委員からの聞き取り（梅川氏） \_\_\_\_\_ 資料5

### 3. 意見交換

### 4. その他

## 6 傍聴人

0名

**【配布資料】**

- 資料1 犬山市観光戦略会議 委員名簿（令和8年8月20日 現在）
- 資料2 犬山市観光戦略 KPI 進捗状況 一覧表
- 資料3 施策の総括表 進捗管理シート
- 資料4 犬山市観光戦略 施策別シート
- 資料5 委員からの聞き取り（梅川氏）

## 7 内容

事務局

皆さんおはようございます。

本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより、令和8年度犬山市観光戦略会議を始めさせていただきます。

私、犬山市観光課課長を務めさせていただいている伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

令和4年3月に完成しました犬山市観光戦略について、策定時には貴重なご意見やご助言をいただき、誠にありがとうございました。この戦略は犬山観光の魅力向上と持続可能な観光まちづくりを目標にして、重点プロジェクトを中心に様々な施策を展開しています。策定から4年が経過しておりますが、本日は昨年度に引き続き、犬山市観光戦略の各種施策の進捗報告をさせていただくとともに、内容をご確認いただき皆様からご助言等を頂戴したいと思います。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。まずは経済環境部長 小池です。

事務局

小池でございます。今日はよろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、観光課長補佐の桃原です。

事務局

観光課長補佐の桃原といいます。よろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、観光課主査補の小澤です。

事務局

小澤です。よろしくお願いいたします。

事務局

最後に観光課長の伊藤です。よろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

会場の都合上、長くても2時間、12時までには終了させていただきたいと考えておりますので、あらかじめご了承くださいと思います。本日は委員総数11名中、10名のご出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので会議が成立していることを報告いたします。本日の会議は、公開で開催されます。事前にホームページ等で傍聴人の募集をさせていただきましたが、本日は傍聴はなしとなっております。会議の内容については、後日資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

会議録につきましては、2名の委員が署名することとなっております。本日

はご出席いただいている委員のうち、河治委員と柴田委員の2名にご署名をいただきますので、よろしくお願いします。

資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局

最後に、今回の観光戦略会議は委嘱の任期中となりますが皆様の任期は8月26日を以て満了となります。来年は中間見直しを予定しており、引き続き皆様に観光戦略についてご指導を賜りたいと考えています。事前に皆様から承諾書をいただき、机上に8月27日より2年間の委嘱状を置かせていただいておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

まず初めに西村会長より、ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

西村会長

おはようございます。よろしくお願いします。

この戦略会議は年に1回開かれていまして、昨年度までの取り組み結果を会議資料でいただいておりますので、報告をいただいて皆さんからコメントをいただきます。今後に関しても中長期的な目標などのコメントをいただきたいので、特別に何かを決めるわけではありませんが、よろしくお願いいたします。

それでは、これから事務局から事前に送付した資料を説明していただき、名簿順にコメントをいただきたいと思いますので、事務局の説明を聞いていただければと思います。

それではまず、事務局から進捗状況2～5をまとめて報告していただいて、あとはご自由にご意見をお伺いしたいと思います。

それでは事務局から説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

西村会長

ありがとうございます。大変充実した資料を作っていただきました。今の説明に関して事前確認など質問があればいただきたいと思いますがないでしょうか。

梅川先生は本日ご欠席ですが、私の後任の学部長に選ばれました。また、先生自身は財団法人の日本交通公社というシンクタンクに長くいらっしゃって、非常にこういうことが詳しい方なので、その意味では専門家の意見として大変

貴重じゃないかなと思います。

それでは、全般的なコメントや少し先を見据えたような提言でも構いませんので、ワンラウンドご意見をいただきます。もし時間があれば、そのあとは追加でもご意見を伺いたいのではよろしくお願いします。

名簿順で石田委員からよろしくお願いします。

皆さんおはようございます。

私の肩書きは至学館大学コミュニケーション研究所の客員教授となります。ちょっと私の経験を申し上げたいと思います。1970年代の大阪万博の後で、いわゆる流通革命というのが起こりました。私の親は商店街の中で商売をやっていた、一気に流通革命で全国の商店街から古い町並みは崩壊です。その時に西村先生の町並みを考える会があったんですね。時代がもう大変革、日本中の日本列島の都市とか町並みが崩壊していくのに、ちょっと待った、という運動を展開されました。例えば、小樽運河を高速道路するとか、いろいろと北海道から九州まであったんです。その運動に僕は参加して、特に愛知県では犬山、それから名古屋の有松、津島、足助。それから岐阜県が非常に盛んで、美濃や飛騨古川や三重県でもあり、やっぱりこの運動には非常に重要なところがあるなと感じて、ほとんど西村先生のおっしゃったことを参考にしながら自分なりに活かしてきたわけです。

先日、滋賀県の長浜市で、僕が市長になったころは全盛期でね、ガラス工場のまちづくりといって全国から来訪者がある。もともと長浜の文化ではありませんでした。しかし一世を風靡した長浜市のブームは陰ってきた、見る影もないという報道があったんです。それで今、長浜の人たちはもう一度再生にチャレンジしかかったという報道がありました。

今は城下町の真ん中に住んでいまして、日々見ていますがびっくりするぐらい人が来てくれます。しかも若い人たちが来てくれます。でも気をつけないと一過性のものになり、時代の流れにまた流されていくんじゃないかと。なぜ犬山が再生したか。そして、西村先生の主張された価値観は何かということを、共通認識として持たなきゃいけないと思うんです。

最近、名古屋鉄道のポスターが大変気に入っているんです。「大人アガル犬山」だったり、「本物を求めて」というキャッチフレーズがすごく気に入っているんです。あれは電通が作っているんです。名古屋の電通は名鉄との関連ですから、名鉄の考え方がそこに入っているんじゃないかと僕は思ってます。それで電通の作った人に会って話しました。

20世紀の初頭ですけど、ドイツの哲学者でベーメという人がいて、雰囲気美学という哲学的な考察をしています。ベーメが言っているのは人間にとって最初に知覚する対象は、雰囲気であるということを言っているんです。犬山が

経済的にも観光で伸びてきたというのは、独特の雰囲気を作ったのではないかと考えています。独特の雰囲気の根底には文化なんです。ベームは自然環境が非常に重要で、建築物が非常に雰囲気の美学を作る大きな要素になると言っているんです。犬山は文化財の建物の宝庫です。私は愛知県の町はほとんど知っていますが、愛知県は一言で言うとトヨタ県です。工業製品の。今は副知事がDXの担当でトヨタ自動車から来た人ですけど、コストパフォーマンスやタイムパフォーマンスとは違う感覚が雰囲気の美学にあり、それを名古屋鉄道が打ち出してくれた「本物を求めて」があるのではないかと。国宝の2つの建物がありますし、明治村にも登録文化財が多くあり、合わせると実は愛知県の3分の2が犬山に集中しているんです。この観光戦略会議も教育委員会の歴史まちづくり課を入れて開催するのが犬山らしい観光戦略だと考えてます。役所は縦割りで横に繋がることしませんが、特に基礎自治体は国の行政と違って横に繋がるから歴史まちづくり課と情報を交換が大事ではないかなと思ってます。

どんな町でも優れた企業と手を組まなきゃいけない。名古屋鉄道は明治村やリトルワールド、モンキーセンターを持っていて、この戦略会議でも名鉄の3つの文化施設をどうやって町全体で掛け合わせ、観光戦略でも名鉄の財産を活かしていく。繰り返しになりますが、愛知県のトヨタ自動車中心とするDXという考え方、根本的にタイムパフォーマンスやコストパフォーマンスです。

ところが、文化にはタイムパフォーマンスやコストパフォーマンスとは違うクオリティの哲学的なものが底辺にあるんじゃないかなと僕は思っています。

犬山祭には高橋会頭に会長をお願いしましたがけれど、犬山祭はユネスコの無形登録文化財なんです。犬山祭りをその枠組みに入れてもらったのは、実は西村先生なんです。西村先生は日本のユネスコのトップでしたから。この戦略会議で一番流れを作ってくれたのは西村先生で、犬山祭の持っている文化性を活かす。あれは修理が中心ですから、それから手仕事の職員たちはすごいです。日本の文化の価値感がその中に込められていると私は体感しました。

繰り返させていただきますけれど、この戦略会議も文化的なアプローチ、文化的な情報収集が大事です。

最後ですが、今日の資料の一番最初の宿泊の町にするというのが着々と進んでいるのですね。これまでの城下町は歩くまちづくりとして、あれだけのにぎわいとなってきました。今後は宿泊の町。今日の資料にも、着実に宿泊が伸びていますので、これは私が社長になって宿泊施設を作りました。あれは観光庁の多額の補助金を獲得できるプランで、岡田さんの観光協会とプランを組んでやりました。商工会議所にも応援してもらいました。割と順調に戦略会議の計画通りには進んでおり、やっぱり宿泊していただく、それと市政の中に、名古屋鉄道の観光資源を積極的・意図的に、取り入れたほうがいいんじゃないかと思っています。以上です。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 西村会長 | <p>ありがとうございます。もう少し文化を強調すべきだと、その中で犬山祭の文化性や名古屋鉄道の3つの施設をうまく入れるとか、歴史まちづくり課とコラボすべきだという貴重な提言をいただきました。</p> <p>それでは続きまして、佐分委員お願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 佐分委員 | <p>全体的な意見を申し上げますと、戦略にある観光まちづくりの将来像として「犬山らしさを磨き、ずっといたくなる、みんなでつくる、みんなのための観光」というのがあって、イメージとして「ずっといたくなる」というのはまちづくりとして非常に大事なことだと思います。上手くいっているように説明を聞いたんだけど、全体としては結構深刻だと思います。</p> <p>例えば、鶯飼で鶯匠のことで、長良川や関では宮内庁の職員が担っていて、犬山は市職員なので将来的にどうだという問題があるし、モンキーセンターについては将来の心配をしているんですが、これからどうしていくんだろうと。名鉄さんが犬山のイメージを上げてくれているのは大変素晴らしいと思っているけど、名鉄も黄金時代を築いた明治村やリトルワールドだったり、博物館を維持するのにはお金がかかるが、国は維持していくためには稼ぐようにさせているのは大変問題であって、明治村はまだしもリトルワールドは建物の修復が必要になってきている。モンキーセンターもただの動物園になりかねないという流れになっている。今後どうやって維持して売り上げていくかということでも相当の問題が沢山あることを考えなければならないと思っています。</p> <p>アンケートについては本校の経済学部はもう少しお金をかけたらちゃんとしたものになると思うが、データが全然足りない。データにはお金をかけてもいいと思うから、これは市にも考えてもらいたい。宿泊が増えたのはインディゴの他にどんな施設が増えたんですかね。</p> |
| 石田委員 | <p>民泊が増えたところがあります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 佐分委員 | <p>民泊は維持や利活用でもすごくいいと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 高橋委員 | <p>あとはABホテルさんが増えました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 石田委員 | <p>外からの資本が犬山へ入ってくるようになりましたね、宿泊業の。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 高橋委員 | <p>あとは石田さんが社長をやられている「宿」。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 佐分委員 | <p>20万人という目標を達成してさらに増やしていくのかどうか。そうだとす</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

るとオーバーツーリズムの関係をどう対策するかを慎重に考えることが必要ですね。

石田委員           そもそも、犬山は宿泊して楽しめる町なんです。だから積極的に宿泊の方向を具体的に打ち出せたら人が来るだけでなく、人を泊まらせる潜在能力があるんです。

佐分委員           花火は良かったと思うが、夜は暗いので統一的なライトだったり、考えなきゃいけないことが多くある。

西村会長           ありがとうございます。  
様々な課題もあるんじゃないかっていうことを言っていただきました。特に宿泊枠に関しては具体的に数字をどう設定するのか、質と量との問題提起をいただいたと思いますので、ありがとうございます。  
それでは服部委員、お願いします。

服部委員           目標がすでに達成されていて、大変素晴らしいと認識しています。  
梅川委員も指摘していますが、量と質という関係の問題をどう捉えるかっていうのが、目標を達成した次に問われてくると思うんですけど、一方で犬山城の委員会では登閣者数がかなり伸びていて、80 万人に達するような人数になっています。犬山城にそこまでの人数を乗せていいのかっていう議論が出てきています。もちろん数が増えるってのはいいけれど、文化財をどう大事にしていきながら、未来に受け継いでいくのかという課題も出てきている中で、その数をどうしていくのかというのは大きな課題です。

佐分委員からご提言がありましたけど、宿泊がどんどん増えて人が増えていくだけでいいのか、質を高めて未来にどうつなげていくのかというのも数を達成したときでこそ、議論しなきゃいけないという時期に入ってきているので、今後の議論の1つの大きなテーマとしてはそこかなと思います。

すでに2人の話の中で文化としてたくさん取り組みされていて大変素晴らしいと思う一方で、何を根拠にしてこういう取り組みを進めていくのかというところがあり、犬山にあるものをどう評価して価値化して、その価値のもとに取り組みを進めていくということが必要で、どういう歴史や文化を価値化してそれに取り組んでいるのか、その関連性はどこにあるのだろうかというのは、常に問われなきゃいけないと思います。

もちろん犬山は近世の城、犬山祭などがあって、それに根拠づけていろんな財産がありますが、それだけでは、先ほどから出てきているものに名鉄さんの名鉄三園の取り組みが出来て集積されてきたというのは犬山の大きな財産で

すけれど、これが果たして一体どこから生まれてきて未来にどう繋げていくのかということは常に考える必要があるなど。

今回の資料3に載せていただいているんですけども、去年も説明させていただきましたが、ふるまちミュージアムという取り組みを進めていまして、犬山の歴史、文化、記憶を掘り起こしてそれを未来につなげていく。それをミュージアムって形で、展示したりしながら人々に共有して共感を求めるという取り組みをしています。今年も城とまちミュージアムの1コーナーを提供いただいて7月から9月まで展示をしていまして、まさに名鉄三園が生まれた背景、そこに、土川元夫さん、それから渋谷敬三さんはじめ、様々な芸術家が関わってかなり志の高い文化施設を作ったのが今から50年以上前に興っています。

佐分委員からご指摘ある通り、非常に厳しい状況に一方になってきている中で、その財産を犬山に住んでる人の誇りとして、もしくは愛着として、もう一度見直して未来に繋げていくにはどうしたらいいんだろうかっていう議論は、やっぱりしなきゃいけない。それは、名鉄さんだけの議論ではなく、犬山に住む人、犬山を愛してきて来ていただく観光客にも共有して評価していただく議論が進んでいくべきなんだろうなど。その根拠として、城とまちミュージアムで展示をさせていただいて、そういうのも材料にしていいただければと思います。

今週末には国立民族学博物館の前会長の吉田さんをお呼びして、犬山の文化観光を考えるワークショップを開催します。そういうのもきっかけにしながら犬山の文化観光が根拠に基づいて進め、未来に繋げていくのかを議論していくフェーズに入ってきています。

文化を未来に渡していくために、アートという方法をうまく使って共有・共感を呼び起こしていただければ。その1つの象徴として、若い太陽の塔があって岡本太郎さんが製作した象徴があるんですけど、これと同様の芸術作品が犬山には各地にある。アートの力も含めてそれをどう繋げていくかをやるべきだなと思っています。

このミュージアムの取り組みをして強烈に感じてるのは、城下町で情報発信をする、いろんな文化に発信するいうときにギャラリーが足りていない。いろんなものを集めたり、想像したり、発信はしたいんだけど、どこで発信したらいいんだろうというとき、犬山には発信できるギャラリーの施設が非常に足りないんです。空間はあるんですけど、ピクチャーレールやライトだったり、きちっとした展示ができる施設がなかなかない。

城とまちミュージアムは市の所有で一般の人が何か発信しようとしてもなかなかやれなく、今回も大変なご厚意で展示させていただいているんですけど、初めての試みで中々そういうことが出来ていない。他にもなく民間の本屋さんにも小さなスペースがあったり、下本町にギャラリーはあるんですけど限定

的で観光客や市民の目に触れるような形で出来るものが何かあれば。犬山ほど文化性が高いのであれば、それを発信できるような場所があって然るべきだと思います。

最後に、大学では土木の学科にいるんですけど、土木学科でずっとやってきて、再来年に都市デザイン基盤学科として学科の名前を大きく変えるということになっています。それはなぜかという、建築も土木もハード整備だけでやっていけない世の中になってきて、一方で市役所は維持管理をしなきゃいけない、本来は維持管理をしなきゃいけない人材がとても必要なんですけど、それだけではなく、空間のことが分かった上で、例えば観光とかまちづくりに入っていって、空間センスを持ってまちづくりに関わっていくって人材育成にシフトしていかないと、土木建築の人材を維持していくのは難しい状況になってきているというのがあって、学校の改変を今やっている最中で都市デザイン教育に力を入れることになりつつあります。

そういう人材を考えていく中で、土木から観光の担い手という、これまでなかったルートを作っていくことが必要と思っていて、梅川先生もおっしゃっていましたが、観光がいかに魅力的な職なのかということを感じていただき、若い人が関心を持って土木建築の技術を持ちながら、観光の方にも入っていける人材をぜひ育てていきたいと思いますし、そういうことを考えて市役所とか公共団体の方の人材の育成にも繋げていただけるといいと思います。

西村会長

ありがとうございます。文化をテーマにした観光ということに関していろいろ提言をいただきました。ありがとうございます。

それでは名古屋鉄道の太田委員お願いします。

太田委員

名古屋鉄道の太田でございます。昨年も考えさせていただき、皆さんからのお話を聞くといつも期待をいただくとともに、すごくプレッシャーを感じるというところでございます。

ちょうど今回 KPI ということを出させていただき、我々も名古屋鉄道としてアンケート調査をしまして、大人アガル犬山というコンセプトで今年度までやってきて、来年度からどうしていくか、どのような犬山のまちづくりを犬山市さんと一緒に作っていくかというデータを取りたいということで、昨日集計が集まったのでまだ分析を進めているところですが、愛知県、岐阜県の方々が思う犬山と、遠方の方が思う犬山っていうのは全然違う傾向だということもあり、何を目的しているかということも全く違ってきて、どれぐらいお金を落とすかっていうところも全く違っているというのを見て思いました。

すでにこの KPI が設計されていて結果は出ていますが、分析するにあたっては地域の人と遠方の方がどう違うのかが分かるといいだろうな、と思いまし

た。我々は 2007 年からプロモーション強化のために犬山市観光協会さんと一緒に取り組まさせていただいて、当初は F1 層を中心に若い方にたくさん来ていただこうともう 10 何年にかけてプロモーションを続けてきましたが、多分もうこの層は一定の評価を得て、そこまでアプローチしなくても来るだろうと。久世委員も SNS で一生懸命いろいろ発信していただいているので、そのあたりの方はかなり来ているだろうということで、インディゴが出来たタイミングで「大人アガル犬山」というコンセプトで、本物の犬山を売っていこうとコンセプトを切り替えてやらせていただいているところでございます。

昨年、ちょうど観光庁の補助金で木曽川鶴飼で船を貸し切りにして、インディゴのバーテンダーを同乗させて少しプレミアムに鑑賞していただけるプランであったり、有楽苑の国宝如庵を特別に観覧いただくものや、玉屋庄兵衛さんのからくりを体験いただけるという犬山でしか体験できないプレミアムなコンテンツを観光庁の補助金を受けていろいろと造成させていただき、国内の DMC や海外で販売をさせていただいています。この犬山でしか出来ないと高付加価値な体験をしっかりと作っていく、それが何なのかっていうところは先ほど文化や歴史が大事というお話がありましたが、持続可能なこの観光地づくりのため、そういうところの視点で見たいと思っていますので、名古屋鉄道としてもそこは伴走していきたいと思っていますところでございます。

西村会長

ありがとうございます。これからも積極的に取り組んでいただけることを楽しみにしています。それでは商工会議所の高橋委員、お願いします。

高橋委員

商工会議所の高橋でございます。

私からは範囲を狭めて具体的に意見をしたいと思います。

まず、かわまちづくりはロングランの最終日に屋形船に乗らしていただきましたけど、本当にすごい人で、現状整備前であれだけの人数が来て、すごいなと感じました。河畔が綺麗になって、常設のお店が出来るとロングラン以外の日も人が集まるでしょう。

ところが、今のキッチンカーの人たちはたくさん応援していただいて、あの人たちがいるから早い時間から賑わっているっていうのがあり、キッチンカーの配置も今後どうなっていくのか心配をしております。

それから、城下町の方ですけども、やはり夜が寂しいし、暗い。他の城下町を比べて何がないかという水がないんです。水がなければ、今いろんな技術があるので作っちゃえばいいんじゃないかっていうことなんですけど、明るくもなるし、投影型で水路作っちゃえばいいんじゃないかなと。今はプロジェクションマッピングの方法もありますし、小さいものもあるので、それをずーっと連ねて、みんな見に来る人も増えるだろうなと思いますし、コンテンツも

変えられるので、そんなことやったらどうかなと思います。

あとは、夕食を食べるところが本当になんですけど、昔の稲置街道作った頃の本町通りって実は、大本町の通りなんです、お城に向かって一本西側なんです。大門町の通りがありますが、店はカフェが少し出来ましたけど、それでももったいないぐらい空きスペースがあります。

それから、練屋町側もそうです。まだまだ空きスペースがいっぱいあるのでそこへ分散すれば、キャパは3倍以上になると考えています。まずは昔の大本町の通りを何とかしたいと思っております。

それから、先週ぐっさん家が放送されました。犬山でした。城下町は本町通りだけ放送しました。真野邸の交差点に来ると、もうここで終わりかという表現でした。ところが、ぱっとぐっさんが発見したのは下本町にある昔のアーケードの昭和の古いビルを見てかっこいいと言いました。下本町を見てみると、少しずつ店が入ってます。私は韓国が大好きでYouTubeを見るんですけど、韓国の中でも、ソウルより釜山。釜山の観光は、若い人が何を発信してるかというと、古い昭和の時代の建物を本当に綺麗にリメイクして小さい看板で、おしゃれなセレクトショップをいっぱいアップしています。みんなYouTubeを観てそこに向かって押しかけてます。そして、発信しています。日本の女性、男性もそうなんですけど、あれだけ韓国になぜ押しかけるかというと、おいしい食と楽しいお買い物、おしゃれな時間を過ごせるということだと思うので、私は釜山のリメイクの仕方、人の呼び方っていうのは、海雲台（ヘウンデ）の山側、それから広安里（クァンアンリ）の山側、そして南浦（ナンポ）の全体ですけど、このお店は大好きなんで見ちゃうんですが時間が潰せるし、楽しいし行きたいなと思うので、そこを参考にしたいなと思います。

ですから、その下本町もあれ厄介だな、邪魔だな、こんな古い、中途半端な昭和の建物と思ってますけど、福岡も天神の裏を歩いても、すごいリメイクして小さいお店がいっぱい入っています。下本町の空いた建物も全然邪魔じゃなくて、これからフルに活用できるし、先ほど服部委員がおっしゃったようなギャラリーにも本当に向いてる空間があることを申し上げたいと思います。

それから、これは勝手なお願いなんですけど、名鉄さんには若い太陽の塔を犬山駅の西側にどうしても持ってきて欲しいんです。あれはみなさんご承知おきのとおりすごい価値がありますから、見るだけでも価値があると思うんです。ところが中々年寄りはおそそまで見に行けないんですよ。駅前のロータリーにあつたらいいなという。多少の移動費用は会議所が工面しますので、よろしくお願いします。

それから、最後に韓国のWOWPASS（ワオパス）というようなカードがあり、外国人にとって本当に便利で使いやすいし分かりやすい。あのようなものを日本も導入しないといけないし、犬山城も人が並んでしまって真夏なんて困りま

すよね。それも韓国だと二次元コードで読み込んで予約さえすれば 15 分前なので並んでくださいとなって、その間、すべて全部時間を有効に使えるんです。そんなシステムは古い町でもどんどん取り入れるべきで、情報発信もしてくれるし、非常に分かりやすいし、便利だなと思います。そういった IT もどんどん入れていかないといけない。

それから、全然話変わりますが、違うファクターとして入ってきたのが、ドラゴンズの 2 軍ファームの誘致課題でございます。これを何とか成功させたら犬山にとってはものすごい大きな柱となり得るので今頑張っております。どうか皆さん、よろしくお願いしたいと思います。

西村会長

ありがとうございます。いろんな提案をいただきました。  
それでは続きまして、観光協会の岡田委員お願いします。

岡田委員

観光協会の岡田です。よろしくお願いします。

犬山観光の現状としては、犬山の観光地として、大変な賑わいを見せているのは果たして犬山城が 70 万を超したから、いいのか悪いのかという基準がないんですけど。

先日、小牧観光協会さんの設立 10 周年に呼んでいただき、春日井さんに豊山町さんやこの地域の観光協会さんが見えたんですけど、マッチングして欲しい話が非常に多い。ゾーンっていう言い方したんですけど、尾張小牧を 1 つのゾーンで見れば観光客の方や名古屋に泊まっても名古屋から名鉄の電車なら 30 分で着けるような好立地ですし、小牧とか春日井を見ると製造業が多くてお金持ちなんです。財政的には豊かなのでそんなに観光に力を入れなくてもいいんですけど。

小牧山城を見に行ってきたとリニューアルされて、お城が 1 個できるぐらいのお金がかかったらしいという現状。聞くにつけてもったいないな、一緒にマッチングできたらいいなって。小牧として観光地になっていくという形がとれたらいいなとは思っています。

ただ、観光協会の現状をお話すると、犬山城は空調がありません。その空調のない中で、観光協会のスタッフが働いているんですけど、対策できるのは、屋外作業される方が扇風機の付いたベストを着るぐらいのことしか、現状できてなく、平均年齢もパートの方が上がってきているという現状があるので、職場環境の改善をしていかないと、国宝だから触れないとか、電気持ってきたらダメだとか、高橋委員がおっしゃった入場整理の件でも昔のディズニーランドのファストパスみたいなのでもいいと思うんです。難しいことをやらなくても、それに時間が書いてあって、そんなに並ばなくても入れるよっていうもの。アナログでもすぐにでもできるんじゃないかと思うんですけど。

いずれにしても、職員さんは大変過酷な状況で、頑張っているというところです。

それから、具体的な取り組みとしては10年ぶりとなる手話外部ボランティア誕生の支援や、高校大学を中心に教育機関から授業や講義、研究協力への要請が観光協会に集まっています。4月にはブラタモリが放送されて、すごい反響なんです。桃太郎のチャートも一躍有名人になりまして、今週の土日にチャート博士のセミナーを開くんですけど、1日で締め切りとなりました。すごい反響があると感じています。

いずれにしても、観光客を迎え入れると同時に、地域の方々に犬山を誇りと思っていただける、そんな地域になるといいと思いますし、先ほど高橋委員も夢を話されたんですけど、成田山の本山って行かれたことありますか。2キロぐらい延々と門前町が続いて、10軒ぐらい鰻屋あったり羊羹屋だったり、東京に近いところで、すごい人が来るので成り立つんだろうなと。僕の夢は犬山駅から成田山にかけて屋台でいいので、延々と店を作ったらそこに集客拠点ができるし、成田山からそのまま直滑降したら木曽川に着きますし、犬山城もすぐ近くだし、城下町もすぐだし、できたら早くに名鉄さんとセットアップして門前町作りたいたいなっていう夢でございます。

西村会長

ありがとうございます。成田山まで門前町という話をいただきました。それでは続きまして、県の観光コンベンション局の河治委員をお願いします。

河治委員

愛知県の観光コンベンション局の河治といいます。

昨年から引き続きよろしくお願いします。

堅い話になってしまうと思うんですけど、愛知県として犬山市さんの観光施策を見ていますと、やっぱり犬山市さんは県内の観光地経営のフロントランナーというか、トップを走ってみえと認識しています。

いろんな課題はあるとお聞きしたんですけど、愛知県からすると、歴史観光を中心にして町としての魅力も長けているので、県としても期待して見ているところです。

誘客のPRやプロモーションも名鉄さんと連携してすごく上手くやってみえるというところがありますが、最近課題になっている持続可能性な観光地経営というところで、駐車場料金や犬山城の料金を見直されたりして、財源をしっかりと確保しながらやっていくということも県として他の県内観光地の皆さんのお手本になるとみえています。

あと、市民参画でいろんな取り組みもされていて、愛知県でデータを取りますと、愛知県民は愛知県が好きじゃないというか、愛知県を他の県の人に推奨しますかと聞くと、ほとんどの人は推奨しませんとアンケート結果が出ま

して、シビックプライドという地元を愛する心というのを養うためにいろんな活動されているというところで、すごく注視をしております。

戦略の目標の指標を見させていただきますと、達成率がかなりいいものがございます。概ね順調に進んでいると思っています。

愛知県のデータなんですけど、最近の宿泊統計訪日外国人の統計調査を見ると、特に愛知県は宿泊客が今年になって減ってきています。国内旅行者も減っており、特にインバウンドの方もデータを見るとかなりの割合で減ってきています。それは中東情勢やサーチャージが上がったとか、いろいろあると思うんですが、足元を見ると観光客というのがネガティブな数字になってきていると思っています。こうした中でどうしてかなきゃいけないか考えているんですが、本当に高付加価値化というのがキーワードに最初になっていまして、質が高いとか、その場所ならではの体験ができるとか、そういったものを磨き上げていこうということが必要です。そうすることで一過性のブームではなく、しっかりとリピーターづくりも取り組んでやっていくべきじゃないかと考えていまして、地元にお金が回っていくような仕組みづくりが必要と考えています。

そうした中で、犬山市さんで地元の雇用率とか地元の使用品目を戦略の目標に入れられていて、そういったデータもなかなか取りにくいと思いますが、しっかり取っていて、地元にかかに回していけるかというところに着眼点があって非常にいいなと思っています。

今月には愛知県として地場産業成長プランを作りました。これは国の地域未来戦略が、国が先月に閣議決定をして各県に地域産業成長プランというのを作らなさい、その中の1つとして地場産業成長プランを作らなさい、作ったら交付金や色々な面でメリットがあるということで、観光も手を挙げて農業やスポーツもなんですが地場産業成長プランを作り、観光は高付加価値化や観光地経営の高度化によって盛り上げていこうというプランで作りました。

愛知県全体としては国から約160億円の交付税をもらって、それを基金で約160億円積立てます。それを今年度から概ね4～5年で消化していくスキームになります。犬山市さんがこうやって頑張ると、県も頑張れるので一緒にいろいろやっていけたらと思いました。

あと、愛知県としては犬山ユースホステルが犬山にあり、やっとコロナの前の宿泊者数の数字に戻ってきました。約7,000～8,000人に泊まっていますが、施設も老朽化しているのでしっかりと修繕費を来年度に向けて予算を取ろうと思っています。犬山ユースホステルも利活用を今後進めたいと強く思っております。

あと、ナイトタイム観光の話も出てきましたけど、先月「愛知・名古屋の夜じかん」というウェブサイトを作りまして、これは知事がナイトタイム観光の

肝入りで、今年度はアジア大会があるので県庁の本庁舎や名古屋市さんと協力して市庁舎、県庁本庁舎のライトアップやプロジェクションマッピング。それと、名鉄さんと協働させていただき、名古屋市内でオープントップバスを走らせるといったもので、アジア大会では名古屋がまだメインになっていますが、県としては県内各地域にそういったナイトタイム観光を広げていき、夜間の消費額や宿泊増を目指したいと思っています。そういったところも情報発信させていただきますので、ご承知いただきたいと思います。以上でございます。

西村会長

どうもありがとうございます。県の情報や施策をご紹介いただきました。それでは続きまして市議会議員の柴田委員、お願いいたします。

柴田委員

議員の柴田です。よろしくお願いいたします。

持続可能な観光まちづくりのために財源確保の話をさせていただきます。市議会では観光に投資する財源確保に向けて仕組みを早急に作るべきという中で、各駐車場の収入の一定額を充てれないかというところで、答弁としては基金に入れて今後積み立てていくという認識でいます。梅川委員の話にもありましたように、出来れば次のステップとしては市内の公共施設の整備にこのお金を充てて、市民の皆様にとって観光が広く市民生活の向上に寄与しているという仕組みを作れるような段階に来ているのではないかと考えています。

もう1つは税のことについて話させていただければと思いますが、これはまだ市議会では議論していませんが、過去には久世委員も議会で観光税の取り組みについて提案されており、宿泊税が具体的に検討していると思っていますが今の犬山の宿泊数だと宿泊税の導入は難しいのかなと、担当課に確認しなくちゃ分からないですけど。そのような状況もあって足踏みしてるのかなというところで、私個人的には施設税について検討したらどうか。これは名鉄さんのご協力がなくてはご理解いただけない話なんですけど、こういった税の取り組みをこれからしっかりと議論していかなきゃいけない段階に来ているのではないかと考えています。

もう1点、ナイトタイムエコノミーの取り組みの話がありましたが、先日日経新聞で、名鉄三園のナイトタイムエコノミーの取り組みが非常に好評だったという記事を読ませていただきました。そういった中でアジア大会とアジア大会の期間中に犬山市ではどのような誘客の取り組みをされるのかを担当課の方から聞かせていただければと思います。

西村会長

その点に関しては全員の発言が終わったら事務局から答えてください。  
ありがとうございます。財源のことをコメントいただきました。  
最後になりますが、市議会議員の久世委員お願いします。

市議会議員ですけど、事業者としてもここに参加して、僕は3つの店を運営しているんですけど、実は客層を変えています。データをやっぱり取らないと根拠に基づいた施策を打てないですから、データを取るためにあえて3つに客層を分けて、客席の数だけではなくてサービスの度合い、どこまでサービスするか、その全部必要かどうかということも検証しながらやっているんですけど、サービスを求められる度合いがだんだん下がっていついていまして、注文取るにしてもセルフオーダーが普及したりとか、キャッシュレスで会計もすぐ終わるというところでスピードも速くなっている感じがします。そのデータ通りに施策を打って、この夏はお客さんがあんまりいないと言われる中でも、うちは30%以上も増えてるような状況で、やっぱり根拠に基づいた施策というのが重要だなと思っています。

正直、このアンケートはほぼ意味がないと思っていまして、全然やっぱり実感とは違うことが多いし、特に地元雇用率に関しては、今はタイミーが多いんです。なので、どこの人か分かりません。どこから来たか聞くと、一宮から来たんですとか、名古屋市からですとか、岐阜の方ですか、実は犬山ですっていうのが全く捕捉できないです。結構活用している店がだんだん増えてきてるので、そういう働き方の多様化ということもあります。

それこそ雇用も、面接をやって採用なんていう時代ではなくなってきました。もちろんそういう人も必要なんですけど、コア人材とそうでない人材、そうでない人材は流動化がものすごい激しく、こういう時代の変化にキャッチアップできない。特に観光や商売に関しては、この時流に乗っていくということが非常に重要なので、このデータ連携も梅川委員のご意見もあるようにDMOという組織があれば一番いいんですけど、全然議論を進めないということは主体的にやる組織が今のところないのかなと。観光協会さんが本当は音頭を取ってDMOに進化するのが一番いいとは思っているんですけども、人材のこともありますしこのデータ連携をDMOがない中でもどうやっていくか。

うちのスタッフから一番クレームが多いのが修学旅行とか団体で来るときは教えてよと。むちゃくちゃ大変なんです。ただでさえベースで人が多いのに、学生たちの制服を見たらやばいと思うことにしているんですけど、もうブワッてくる。そこでもう時間がない、早く出して、でも何も買えずに帰っていくって、あの人たちだけでももったいない。それ以外の団体客でももちろんあるでしょうから、データ連携ができれば難しくないかもしれない。宿泊もそうですけど、宿泊した方がどれぐらいで、朝の時間にどれぐらいの人がいるか、朝から開けてみようかという店も増えるでしょうし、宿泊客が多い日であれば夕方まで人がいそうだと、店の時間を延ばしてみようかということも増える。やっぱりデータに基づいた施策が重要なんです。

コンテンツとしては、昼のコンテンツよりは夜のコンテンツが重要だなと思っていて、花火の期間はこれまでの店の変化と全く違ったのは夕方お客さんがものすごくいました。いつもだったら 15 時ぐらいにピタッと人がいなくなり始めて、だんだん売り上げが減っていったその間に仕込みとなるんですけど、夜のコンテンツがあることで夕方に向けての人が増えてきて、ベースの昼間の売り上げがものすごい増えました。

夜は屋台が花火会場で大規模に出店したおかげで城下町はそこまで流れてこなかったのが去年より夜間の売り上げはかなり減ったんですけど、昼間の売り上げがものすごく、トータルではあまり変わらないです。だから夜のコンテンツというのは、昼の集客の夕方ぐらいの時間帯にかけても重要で経済効果としては一番大きいものかなと思っています。以上です。

西村会長

ありがとうございます。リアルな情報をいただきました。

それでは事務局の方で何か答えられるものがあつたらお願いします。いかがでしょうか。

事務局

皆さんありがとうございました。毎回、この観光戦略会議では本当にありがたい意見をいっぱいいただいています。よく観光関係のいろんな自治体とかいろんな方とお話するとき、観光の計画のための会議は他の自治体でも結構あつて名簿を見せたりすると、すごいメンバーでやっているんだね、とよく言われます。県の方だったり、名鉄の方だったり、有識者の方だったり、市議の方からも意見いただいて本当にありがたいなと思っています。このいただいた意見をしっかりと自分たちの施策に落とし込んで次年度に向かって準備し、実現していくのが大事かなと思っています。

一方で、報告させていただいたのは観光課や協会も含めてものすごく一生懸命やっていて、本当によくやっているんですけど、まだまだ足りないことが多いなというのを毎回この会議のときに感じます。いただいた意見をしっかりと捉えて実現をしていかなくはないと思っています。

いろいろご意見いただいたところで、まず 9 月から 10 月のアジパラの期間で誘客の特別な取り組みあるかというお話ですが、アジパラを狙ってフェアをやったり、特別なキャンペーンやったりっていう予定は特段ありません。シルバーウィークも迫っているので、毎年やっている通り、警備員をその時期に配置して受入環境の整備をしっかりと行うのが第一。その中で犬山にも波及していると思うのは宿泊がこの期間はいっぱいになってきているっていうところがあるので、アジパラをやっていたいただいたおかげで、我々の町にもいいことがあるんだと思いますし、そういったところで来ていただいた方に満足していただけるような体制を整えることが大事と思っています。

先ほどの情報発信のご指摘はまさにそうだなと思ひまして、実は修学旅行も単発で来たりするのがほとんどで、修学旅行で犬山に宿泊されるのはほとんどない状態だったりします。バスで立ち寄るお客さんをキャッチできる方法がほとんどなく、そういう意味ではいろんな技術があるので、手だてを考えていきたいという気付きがありました。駐車場も色々な議論があつて予約制にしている現状があります。駐車場管理だけでいうと特段予約がなくても良かったりしますが、来訪客が一時急激に増えるので、そういったものをキャッチして城下町事業者のためにお知らせするっていうのは、他の事業者の方からも前にそのような意見いただいたことがあります。なので、何か連携できるという思いがあります。

梅川委員からもご指摘ありましたし、委員の様々な方からもご意見いただきましたが、DMO という仕組みづくりとか、強靱に観光を推進していくための体制づくりっていうのが非常に重要だなっていうのを感じています。データの収集と活用だけではなく、コンテンツを企画して実行していく、あるいは地域の皆さんと意見をすり合わせながらより効果的な施策を適切な時期にやっていくっていうのは観光課のメンバーだけでは難しいですし、協会と連携してもなかなか実現しづらいという意味では、仕組み換えみたいなものは、短期間ではできませんが、何か作り上げていいんじゃないかなっていうのは考えています。その上で財源も必要になるのでそのあたりは課題だなと思っています。皆さんの貴重な意見を1人1人へお返ししたいんですけど、言い続けると時間がなくなってしまうのでこの辺にしておきます。ありがとうございました。

西村会長

ありがとうございます。

ワンラウンドいただいたので、追加のご意見があれば、佐分委員どうぞ。

佐分委員

今、うちの大学で観光の問題を複数のところで取り上げていて、情報選択ということで言えば情報学部を作ろうとしています。ソフトバンクの宮川さんにも先日協力を依頼して、出来る限りのことは手伝うといただいているので、ソフトバンクとも組んで情報学部を作るとというのが1つ。それから、観光については観光戦略をやると以前申し上げたのですが、ウズベキスタンとの大学交流、それから観光庁との交流も進めていて、実は JICA の行動をとることに失敗しているので話がうまく進んでいませんけれど、ウズベキスタンはご承知のように海がないので、IT や AI と観光を資源にして国の振興を図るという方針で教育にかけているので一緒にやろうとしています。その中では、観光については観光による地域経済振興。とりわけ、女性の地位向上というプログラム。

我々も共同でやろうと思っているのは、もともと犬山は若い観光客が来て、

ごみは落とすけどお金は落とさないと言われているので、地域経済振興につながる企画を考えている意味では重要だということで、スタッフは愛知県からも来ていただいているし、元 JTB の職員も取りましたし、人流を統計的に取るという専門家がデータを採用した観光もやりたいということで、それと組んでデータを集めるセンターを市と観光協会と協力して、久世委員の言う通りで、具体的に生きたデータを取らないといけないので一緒に出来たらと思っています。

西村会長

ありがとうございます。他の方でいかがでしょうか。

柴田委員

高橋委員が先ほど城下町は水がないとおっしゃって、確かにそうだと思うんですけど、大手門憩いの広場は水が流れる施設の整備があったんですよ。今は全く使っていないので、大手門の枳形跡の整備をするときに利活用を考えたらどうかと思っています。最初作ったときにきちんと水路があって水が循環するシステムだったんですけど、あるときから壊れてそのままなんです。憩いの広場は水場だったんですよ。昨日その草刈りをして思ったんですけど、高橋委員がおっしゃって、そういえば水が確かにない、逆に水場があれば、かなり空間としてはいいんじゃないでしょうか。

西村会長

ありがとうございます。

石田委員

柴田委員が発言されましたが、僕も話した雰囲気の美学の観点からいくと城下町の電柱を埋設ものすごく大きいんです。本当は城下町全体の電気を埋設する計画があったんですけど、それが止まってしまって大本町通と練屋町通り、寺内通りは電柱を埋めたらがらっと変わってくるんです。いわゆる雰囲気が変わってくるんですよ。だから議会でもっと議論してほしい。行政を突き上げてほしい、計画があったんだから。本町通りの電柱のない美しさは、具体的に言うと思います。

雰囲気というのは白川の合掌村へ行ったときも思ったんですが、建物が独特の雰囲気を作っているんですよ。だから世界中の人があそこは面白いと、ちょっとオーバーツーリズム気味になっているみたいですけど。建物の雰囲気が何かしらを引きつけるというのが城下町の強み、しかもお城という精神的な中心軸がありますから。

それから、役所の人定年で辞めてあちこちに行きますけど、経済的な観念がないです。だからそこを崩して、今は犬山城下町のまちづくり会社はものすごく成績がいいんです。あれは TMO、タウンマネジメントオーガニゼーションで犬山が初めてやったんです。会長に高橋委員のお父さんになってもらったん

西村委員

です。会議所関係の人が行政と一緒にあって経済的な効率性やそういうセンスがないと、行政と民間でまちづくり。行政だけではとても地域経済に反映しません。

その意味でも観光課だけだと中々やりきれないことがあるので、いろんな連携が必要になってくると思いますね。観光課は有能ですよ、ものすごく頼りになっていますから。特に観光課は、職員みんなでこれだけの資料が出てくるわけですから。

私からも一言。先ほどの下本町の再開発の建物の話なんですけど、割と最近あの手の建物が若い人たちに人気で、全国的には防火街区地区というんです。戦後の防災街区の建築の仕組みの中で出来たもので看板とか横に繋がっているところが特色なんですけど、それがすごい人気になっているので、これからさらに注目されると思います。

それともう1つ、先ほど本物というところで、城下町というと人が住んでいて、人が住んでいるところが賑わっている、ということがすごく大事なんですよ、お城があつて。だから、城下町のことが一番感じられるように、上手い具合に出来ているわけですね、ちょうど骨と筋で。お城に向かって道がある古いタイプの城下町なんです。なので、その意味で言うと住んでいる人が困ってしまうことでは意味がないから、住んでいる人がちゃんと満足して、そこが賑わうと。そして、それが色々なところに人が回遊してもらうことでそれぞれの通りでそれぞれ戦略があつて、いろんなお客さんに来ってもらう。そのためには電柱がなければ、すごく進むということもあるので、観光の戦略と地域整備の戦略は重なる部分があると思うんですよ。ぜひそういう意味で、いろんなところとコラボレーションして地域の戦略として立てていってもらいたいです。それができるとまさに、観光戦略の一部になる。

全体としてよろしいですか。それでは、全体として自由にご発言いただきましたので、これで予定した議題を終わりたいと思います。

では、進行を事務局にお返しします。

事務局

西村会長ありがとうございました。

委員の皆さんもありがとうございました。

会議冒頭にもお伝えしましたが、観光戦略の策定から犬山市の観光の取り組みにお力添えいただき、本当にありがとうございます。犬山観光の魅力向上と持続可能な観光まちづくりを目標に今後も様々な施策を展開していけるよう励んでまいります。

来年には策定から5年が経過するので、中間見直しを行う予定です。委員の皆様には引き続きお力添えをいただき、今後ともよろしくお願いします。

それでは以上を持ちまして、令和 8 年度犬山市観光戦略会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。